令和４年度　　〔　公　民　科　〕シラバス　　北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
公民	公共	2	必修科目	1年	
使用教科書	教育図書　公共			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	学習を通じて現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題解決のために主体的に考え判断する能力を身につけることを目指す。社会課題に対するみかた、考え方はさまざまあり多面的であることを重視しその複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す、公共的存在として能力を養うことにとくに重点を置く。

学習評価

	育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力の評価内容
1	基盤的学力	文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。
2	問題発見・解決能力	問いを立て、解決に向かうことができる。
3	情報活用能力	情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。
4	主体的判断能力	物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。
5	協働力	他者を尊重し、協働することができる。
6	自律力	規範意識をもって自律的に行動することができる。
7	実践力	自ら考えて行動し実践することができる。
8	自己認識力	自分の思考を客観的に捉えることができる。

以上の観点をふまえ、
授業の取り組みや定期考査、小テスト、レポート、授業プリントへの取り組みなどを総合的に評価する。

担当者から

時数の兼ね合いから題材を選択して進みプリントを中心に授業をおこなう。授業時間を大切に自宅でも復習に励むことを望む。また、公共では身近で起こるさまざまな社会問題や話題を引き付けて考えるテーマ学習が設定している。主体的、対話的な授業を通して自ら思い考え深めることを目標とする。

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元（題材）の評価規準			評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	公共の扉 （公共と人）	※ オリエンテーション 1 人は一人では生きられない 2 人はどのようにつながるのか 3 自由と正義の実現を目指して 4 対話から生まれる公共 5 日本の公共思想 ※各テーマ学習	人と人とのつながりの中で自由に生きられる公共的空間の重要性を学び、それを形成するうえで重要な知識を習得させる。	○	○	○						人が人生において持つ意味を理解している。人と人とのつながり、人間の本性や日本における公共の発展について理解している。	公共空間とはどのような空間か自分の体験や具体的事例に基づいて思考している。相手の意見を受けて自分の考え述べることができる。	多様な人間と共働する公共空間の担い手としての自覚を深める。自由で公正な社会の実現に向けて主体的に思考している。	年四回の定期考査 小テスト レポート 授業プリントへの取り組みなどで評価する。
5	公共の扉 （公共と倫理）	1功利主義と義務論 2水俣病を考える 3地球温暖化問題 4誰が医療を支えるのか ※各テーマ学習	戦後の公害問題や地球環境問題を考え、これを将来どのように解決するかが重大な課題であることに注目させる。		○	○	○					感性と理性の相違について理解している。経済と環境との関係を理解している。	社会現象や政策判断を功利主義、義務論の考えに基づき表現している。	学習した内容を自らの倫理観、過去の行為に照らし合わせて思考している。	
6	公共の扉 （公共の基本原理）	1生徒会予算をどう分配するのか 2意見が分かれたときにどう決めるか 3民主政治の歴史 4日本国憲法の三つの原理 5基本的人権の尊重 6大学入試と男女差別 7なぜ女性医師が日本は少ないのか	民主主義の基本的な仕組みを理解させ、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の憲法の原理についての知識を習得している。 法の下の平等、自由権、社会権などの基本的人権はすべての人間が持っており、憲法がそれぞれを保障していることを学ぶ。	○	○				○			異なる意見を持つ他者の考え方を理解しようとしている。憲法での国民の権利と義務について理解している。 日本社会の現状について理解している。	民主主義のさまざまな制度がなぜ必要なのか表現できている。立憲主義の意義について適切に表現できる。 「公共の福祉」の概念が、どのような役割を果たすのか思考する。	自らが持っている人権（自然権）について自覚を深めている。日本国憲法の条文を読み、理解を深めようとしている。様々な基本的人権について、権利主体として自覚しつつある。	
7	現代社会の諸課題 （法）	1法と社会 2多様な契約と消費者の権利と責任 3日本の司法制度 ※各テーマ学習	社会が法やマナー、道徳などのルールにより維持されていることを学ぶ。社会生活を営む上で、私たちは様々な契約を結んでいることを理解させる。			○	○		○			法と道徳との相違点を理解している。契約が当事者の同意により、成立することを理解している。	法の限界を理解し、法の実効性を高めるための手段について思考している。よい社会の実現のための法がどのように機能しているか表現している。	法について関心を持ち、自らが持つ権利と、責任について自覚を深めている。	
9	現代社会の諸課題 （政治）	1選挙と政治参加 2公正な世論の形成 3国会と内閣 4地方自治 ※各テーマ学習	民主主義を維持していくために私たちの主権者としての自覚が重要である点を強調し、国民の意思決定は民主主義の本旨であることを理解させ、そこで展開される政治についての仕組みについて理解を深める。		○		○		○			民主主義とは国民に主権があるという基本的な考えに基づき、これを実現するためにさまざまな制度や法律があることを理解している。	現在の日本の政治制度について具体的に説明できる。 主権者としてどのような意識が重要か思考している。	政治に関心を持ち、私たちの民意を実現するために、よりよい政治の仕組みを考察しようとしている。	
10	現代社会の諸課題 （国際社会と日本）	1国家主権と領土 2安全保障と防衛 321世紀の世界情勢 4国際社会と日本 ※各テーマ学習	戦後、日本が国際社会において果たしてきた役割を学び、今後日本が国際社会で果たすべき責任について学習する。	○		○	○					戦後の日本がたどってきた歴史と、国際貢献の内容を理解している。日本が国際社会で果たすべき責任について思考している。	平和主義という憲法の理念の下、過去の戦争責任を果たしつつ、同時に未来の平和責任を果たし日本の役割について思考している。	先進国である日本が国際社会で果たすべき役割について、自覚を具体的に考察する意欲がある。	
11	現代社会の諸課題 （経済）	1職業選択 2雇用と労働 3労働者の権利 4財政の役割 5租税の仕組みと国債 6少子化と社会保障 7市場経済の役割と限界 ※各テーマ学習	日本経済がたどってきた産業構造の変化と、今後の働き方の可能性について学び、自らが働くことの意味や、生活とのバランスについて自覚を持たせる。 日本の財政についてのしくみについて知識を習得しているとともに、日本の財政問題についてその現状と課題について考えていく。			○	○		○			財政の三つの役割について知識を習得している。景気を安定させるための財政政策の仕組みを理解している。	財政が市場経済で発生する諸問題に対処するため政府が行う経済活動を思考している。	将来どのような働き方を望むか、日本経済環境の変化を主体的に受け止めて思考している。	
1	現代社会の諸課題 （金融）	1金融のはたらき 2日本銀行と金融経済 3グローバル化と経済統合 4格差是正と多文化主義 ※各テーマ学習	金融が家計、企業、政府の間で幅広く行われ、経済活動を支える重要な役割を果たしていることを学習する。 金融市場の仕組みと、企業の会計情報などの知識を習得するとともに、金融の自由化、国際化について学ぶ。		○		○		○			直接・間接禁輸の違い、銀行や証券会社など金融機関の役割を理解している。	金融の仕組みを通してお金が流れ、経済主体の間を循環していることを表現している。	預金や株式などに関心を持ち、経済主体としての自覚を深めている。日本の金融の流れについて自ら調べようとしている。	

3	現代社会の諸課題 （情報）	1つながりっぱなしの私 2インターネットは公共圏か？ 3持続可能な社会へ 〇まとめ	現代社会が膨大なメディアを介して人と人が繋がっていることを理解し、自らとメディアとの関わり方について考える。 これからの持続可能な社会にどんな課題があるのかを考察し、これまで学習してきた公共的な見方・考え方をはたらかせて課題解決に向けて学習する。				〇		〇	〇		メディアとはテレビや携帯などの単なる機器ではなく、情報環境そのものであることを理解している。社会課題の調査、表現方法、課題解決に向けた協議方法について学習している。	人は通信機器を通じて何をしようとしているのか、自らとメディアの関係について考えている。公共で学習した内容や課題をもとに見方・考え方を働かせ、具体的な社会課題を見出し、これを適切に表現している。	メディアについてより深く学ぼうとしている意欲が見られる。ここで学んだことをもとに、社会参画への意欲を持ちはじめている。	

令和４年度　〔　地理歴史科　〕　シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	日本史B	2	必修科目	2年	
使用教科書	山川出版社　詳説日本史　改訂版			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	教科書の精読ならびに資料の有効活用により、深く理解する態度を養う。 課題・資料の内容から問題意識をもって授業に参加する。
学習評価	

育成を目指す資質・能力		育成を目指す資質・能力の評価内容
1	基盤的学力	文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。
2	問題発見・解決能力	問いを立て、解決に向かうことができる。
3	情報活用能力	情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。
4	主体的判断能力	物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。
5	協働力	他者を尊重し、協働することができる。
6	自律力	規範意識をもって自律的に行動することができる。
7	実践力	自ら考えて行動し実践することができる。
8	自己認識力	自分の思考を客観的に捉えることができる。

以上の観点をふまえ、
定期考査の成績、課題やレポートの取り組み状況、授業への参加態度などから総合的に評価する。

担当者から

単元ごとのプリントを中心に授業を進める。
ペアワークやグループワークを通して主体的に授業に参加すること。
自ら学習内容をまとめる作業を通して表現・工夫する力を養う。

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元（題材）の評価基準	評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8		
4	第1部　原始・古代	1　日本文化のあけぼの	1　文化の始まり	○	○		○					先史時代の人々の生活の工夫・技術について関心を持つ。	年4回の定期考査
4			2　農耕社会の成立	○			○		○			獲得・生産・技術導入の経済活動の変遷を理解する。	プリントのレポート提出
5			3　古墳とヤマト政権	○		○				○		地域社会から国家への変遷を総合的に理解する。	グループワークの積極性
5		2　律令国家の形成	1　飛鳥の朝廷	○		○					○	大陸との交易の中で培った工夫・技術について関心を持つ。	
6			2　律令国家への道	○			○		○			制度・政治・文化の変遷を総合的に理解する。	
6			3　平城京の時代	○			○				○	国家形成が進む中での改革・文化形成を理解する。	
7			4　天平文化	○		○		○				国家による仏教の興隆などに着目して国際性を考察する。	
7			5　平安王朝の形成	○			○		○			天皇中心の国家・諸制度改革の変遷を理解する。	
8		3　貴族政治と国風文化	1　摂関政治	○			○				○	政治体制および社会の変化について関心を持つ。	
8			2　国風文化	○		○		○				独自の日本文化や血縁社会の形成について理解する。	
9			3　地方政治の展開と武士	○			○			○		中央から地方、貴族から武士の社会に至る変遷を理解する。	
9	第2部　中世	4　中世社会の成立	1　院政と平氏の台頭	○			○		○			武士の社会や乱世での仏教の形成等について関心を持つ。	
10			2　鎌倉幕府の成立	○		○					○	封建社会の成立・仕組み・政治体制について理解する。	
10			3　武士の社会	○			○			○		土地支配や公武関係に着目して多面的に考察する。	
10			4　蒙古襲来と幕府の衰退	○			○		○			東アジア世界との関わりが国内政治に与えた影響を考察する。	
11			5　鎌倉文化	○		○		○				文学・美術・宗教等の武士の精神文化について理解する。	
11		5　武家社会の成長	1　室町幕府の成立	○			○				○	武家社会の動揺と近世社会の特色を考察する。	
11			2　幕府の衰退と庶民の台頭	○			○		○			乱世の人間関係や新たな地域社会形成について理解する。	
12			3　室町文化	○		○		○				地方・庶民の台頭と文化の変容について総合的に理解する。	
12			4　戦国大名の登場	○		○				○		地域の政治やそれを産んだ社会のあり方について考察する。	
1	第3部　近世	6　幕藩体制の確立	1　織豊政権	○			○		○			乱世を統一する指導者と強力な政治体制について関心を持つ。	
1			2　桃山文化	○		○		○				欧州との接触、安定釈迦建設への変換を理解する。	
2			3　幕藩体制の成立	○		○					○	全国統一・幕藩体制への変遷について理解する。	
3			4　幕藩社会の構造	○			○		○			強大な指導者による安定社会への変遷を総合的に理解する。	

令和４年度　〔　公　民　科　〕シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
公民	倫理	2	選択科目	2年	
使用教科書	清水書院　高等学校　新倫理　新訂版			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	教科書をもとに先人の思想に触れ、「より良く生きる」ということについて考える。
学習評価	

育成を目指す資質・能力		育成を目指す資質・能力の評価内容
1	基盤的学力	文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。
2	問題発見・解決能力	問いを立て、解決に向かうことができる。
3	情報活用能力	情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。
4	主体的判断能力	物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。
5	協働力	他者を尊重し、協働することができる。
6	自律力	規範意識をもって自律的に行動することができる。
7	実践力	自ら考えて行動し実践することができる。
8	自己認識力	自分の思考を客観的に捉えることができる。

以上の観点をふまえ、

・先人の言葉や考え方を学び、そこから自らの生き方や社会のあり方について考えるようになったかを、定期考査や作文、グループ学習での取り組みよって総合的に評価します。

担当者から：「考えること」「考えを深めること」の意義と、そのためには知ること、学ぶことが必要であることに気づいてもらえることが、学習の目的です。

月	大単元	単元(題材)	学習内容	重点評価事項(資質・能力) 1	2	3	4	5	6	7	8	単元(題材)の評価基準	評価方法
4	1 現代に生きる自己の課題	1 人間とは何か	1 人間とは何か	○				○				哲学の意味を知り、学びへの関心を持つことができる。	定期考査、授業参加 グループ討論への取組 作文
4		2 青年期の課題と自己形成	1 青年期の意義	○							○		
4			2 自己の理解に向けて	○							○		
4			3 豊かな自己実現のために	○							○		
5	2 人間としての自覚と生き方	1 人生における哲学	1 神話から哲学へ	○								ギリシア哲学を学び、先人の思想に興味・関心を持ち、自らの生き方について考えられる。	
5			2 自然哲学の誕生とｿﾌｨｽﾄ	○			○						
5			3 真の知への道ーｿｸﾗﾃｽ	○			○						
5			4 理想主義的なあり方ｰﾌﾟﾗﾄﾝ	○									
5			5 現実主義的なあり方ｰｱﾘｽﾄﾃﾚｽ	○									
5			6 幸福をめぐる問いｰﾍﾚﾆｽﾞﾑの思想	○									
6		2 人生における宗教	1 キリスト教ー愛の宗教	○			○					宗教を理解し、人間にとっての宗教の存在について考えられる。	
6			2 イスラーム教ー啓示と戒律の宗教	○			○						
6			3 仏教ー智慧と慈悲の宗教	○			○						
7		3 人生の知恵	孔子と儒家の思想	○			○					中国の思想に触れ、生き方や社会のあり方について考えられる。	
7			儒教の展開	○			○						
7			道家の展開	○			○						
8		4 人生における芸術	4 人生における芸術	○								芸術の有意性について理解する。	
9	3 現代社会と倫理	1 現代の倫理的課題	1 現代の倫理的課題	○	○							西洋思想に触れ、社会の変化とともに、人間は苦悩し、様々な思想を生み出したことを知る。 自らの生き方や社会との関わりについて考えられる。	
9		2 現代に生きる人間の倫理	1 人間の尊厳	○	○								
9			2 自然や科学技術と人間のかかわり	○			○						
9			3 民主社会における人間のあり方	○			○						
10			4 自己実現と幸福	○			○						
10			5 個人と社会のかかわり	○				○					
10			6 現代における理性の問題	○	○								
11	4 国際社会における日本人の自覚	1 日本の風土と外来思想の受容	1 日本の風土と伝統	○								日本の思想に触れ、日本人の思考が風土や歴史の中でどのように生み出されてきたかを知る。 日本人としての自覚と、これからの生き方や社会のあり方について主体的に考えられる。	
11			2 仏教の伝来と隆盛	○									
11			3 儒教の日本化	○									
11			4 日本文化と国学	○									
11			5 近代庶民の思想	○									
11			6 西洋近代思想の受容	○									
12		2 現代の日本と日本人としての自覚	2 現代の日本と日本人としての自覚	○	○			○					
12	5 現代の諸課題と倫理	1 生命と倫理	1 生命と倫理	○			○					様々な思想に触れ、そこから自分の考えを深める。 現代の諸課題について、自分の意見を述べられるようになる。	
12		2 環境と倫理	2 環境と倫理	○			○						
12		3 現代の家族とその課題	3 現代の家族とその課題	○			○						
12		4 地域社会の変容と共生	4 地域社会の変容と共生	○			○						
12		5 情報社会とその課題	5 情報社会とその課題	○			○						
1		6 グローバル化の時代と倫理	6 グローバル化の時代と倫理	○			○						
1		7 人類の福祉と国際平和	7 人類の福祉と国際平和	○			○						

令和４年度　〔　地理歴史　〕　シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	世界史A	2	共通履修科目	3年	
使用教科書	明解　世界史A（帝国書院）			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	ワークシートを中心に授業を進め、教科書からさまざまな情報を読み取りながら思考を深める。 世界の歴史的諸事象について、日本の歴史とのつながりや横とのつながりを意識しながら多面的に考察する。
学習評価	育成を目指す資質・能力 / 育成を目指す資質・能力の評価内容 1 基盤的学力：文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。 2 問題発見・解決能力：問いを立て、解決に向かうことができる。 3 情報活用能力：情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。 4 主体的判断能力：物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。 5 協働力：他者を尊重し、協働することができる。 6 自律力：規範意識をもって自律的に行動することができる。 7 実践力：自ら考えて行動し実践することができる。 8 自己認識力：自分の思考を客観的に捉えることができる。 以上の観点をふまえ、 ・定期考査、ワークシート、グループワークの取り組み状況などを総合的に評価します。 ・主に、定期考査で主に1・3を、ワークシート・グループワークなどで2・4～8を評価します。
担当者から	ワークシートを中心に授業を展開します。自分の考えを積極的に表現してください。 教科書や史料から必要な情報を読み取り、活用できるようになりましょう。

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力) 1	2	3	4	5	6	7	8	単元（題材）の評価基準	評価方法
4	1部　世界の一体化と日本	1章　前近代の諸文明	序節人類の始まり	○	○				○			人類の発生・進化の過程や農耕・牧畜による食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追求する。	年4回の定期考査 ワークシート グループワーク などを元に評価する。
4			1節東アジアの文明	○	○	○						日本を含む東アジアの文明の特質（封建制度・儒教思想・律令体制など）を理解する。	
5			2節南アジアの文明	○	○	○						南アジアの文明の特質（カースト制・宗教など）を理解する。	
5			3節東南アジアの文明	○	○	○						東南アジアの特質（都市や港市のネットワークなど）を理解する。	
5			4節西アジア・北アフリカの文明	○	○	○						成立とその特色について、イスラーム教やムスリム商人の役割などから理解する。	
5			5節ヨーロッパの文明	○	○	○						ヨーロッパ文明の特質（古代文明・キリスト教・封建社会など）を理解する。	
5			6節南北アメリカの文明	○	○			○				風土と先住民、独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追求する。	
5			7節ユーラシアの交流圏			○	○	○				交流圏の成立とネットワークに関する資料を収集し、適切に活用する。	
6		2章　一体化に向かう世界	1節繁栄するアジア	○	○		○					成熟期を迎えたアジアの諸帝国の特色を理解する。	
7			2節大航海時代と新たな国家の形成	○	○			○				16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向について、グループで考察する。	
8		3章　欧米の工業化とアジア諸国の動揺	1節ヨーロッパとアメリカの諸革命	○	○		○					ヨーロッパとアメリカの諸革命について理解する。	
9			2節自由主義・ナショナリズムの進展	○	○			○				自由主義とナショナリズムの進展について理解する。	
10			3節アジア諸国の動揺	○	○					○		ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化と抵抗などのアジア諸国の動揺について理解する。	
11			4節東アジアの大変動	○	○					○		ヨーロッパ諸国の進出に対する日本の対応など、東アジアの様子を理解する。	
11	2部　地球社会と日本	1章　現代世界の芽生えと世界大戦	1節現在につながる社会の形成	○	○		○					20世紀という時代の特質を理解する。	
12			2節第一次世界大戦がもたらしたもの	○	○						○	第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義について考察する。	
12			3節民族自決を求めて	○	○			○				民族運動と民族自決を求めたアジアのナショナリズムの動きについて考える。	
1			4節経済危機から第二次世界大戦へ	○	○						○	世界恐慌と資本主義の変容、国際政治の流れ、現代の戦争の特質と平和の意義について考察する。	
1		2章　冷戦から地球社会へ	1節冷たい戦争の時代	○	○				○			1970年代頃までの世界の大きな動向について理解する。	
2			2節冷戦終結への道のり	○	○					○		1970年代以降の世界の大きな変容について理解する。	
2			3節地球社会への歩み						○	○	○	これからの国際社会における日本の役割について考察する。	

令和４年度　〔　地理歴史　〕　シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
地理歴史	日本史B	3	共通履修科目	3年	
使用教科書	詳説　日本史（山川出版社）			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	教科書の精読ならびに資料の有効活用により、深く理解する態度を養う。 課題・資料の内容から問題意識をもって授業に参加する。
学習評価	育成を目指す資質・能力 ／ 育成を目指す資質・能力の評価内容 1　基盤的学力　文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。 2　問題発見・解決能力　問いを立て、解決に向かうことができる。 3　情報活用能力　情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。 4　主体的判断能力　物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。 5　協働力　他者を尊重し、協働することができる。 6　自律力　規範意識をもって自律的に行動することができる。 7　実践力　自ら考えて行動し実践することができる。 8　自己認識力　自分の思考を客観的に捉えることができる。 以上の観点をふまえ、 定期考査の成績、課題やレポートの取り組み状況、授業への参加態度などから総合的に評価する。
担当者から	単元ごとのプリントを中心に授業を進める。 ペアワークやグループワークを通して主体的に授業に参加すること。 自ら学習内容をまとめる作業を通して表現・工夫する力を養う。

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力)								単元（題材）の評価基準	評価方法
				1	2	3	4	5	6	7	8		
4	第3部　近世	8　幕藩体制の動揺	1　幕政の改革	○	○		○					経済発展や農民層分解という幕藩体制の構造変化に関心を持つ。	年4回の定期考査
4			2　宝暦・天明期の文化	○		○	○					洋学や国学の発達を、幕藩体制の動揺に着目して考察する。	プリントのレポート提出
5			3　幕府の衰退と近代への道	○	○		○					幕府衰退化と近代化の道程について関心も持ち、理解する。	グループワークの積極性
5			4　化政文化	○		○	○					学問・思想の発達と庶民教育機関普及について理解する。	
6	第4部　近代・現代	9　近代国家の成立	1　開国と幕末の混乱	○	○		○					開国により国際社会に組み込まれた過程について考察する。	
6			2　明治維新と富国強兵	○	○			○				列強に対抗する近代国家形成への意識と行動について理解する。	
7			3　立憲国家の成立と日清戦争	○	○					○		自由民権運動により政治的関心が高揚したことを考察する。	
7			4　日露戦争と国際関係	○	○				○			近隣諸国が我が国の対外姿勢をどう受け止めたかを考察する。	
8			5　近代産業の発展	○	○			○				社会問題・労働問題などの社会運動が起きた経緯を理解する。	
8			6　近代文化の発達	○		○	○					伝統的な文化の上にお薄油分かを取り入れた特色を理解する。	
9		10　二つの世界大戦とアジア	1　第一次世界大戦と日本	○	○			○				大戦が経済・社会に及ぼした影響について多面的に考察する。	
9			2　ワシントン体制	○	○						○	国際社会における日本の立場や対外政策について理解する。	
10			3　市民生活の変容と大衆文化	○		○	○					市民の生活の変化が大衆文化に与えた影響について考察する。	
10			4　恐慌の時代	○	○				○			経済政策に着目して世界経済との関連について理解する。	
10			5　軍部の台頭	○	○		○					対外政策の推移を、国際環境や国内状況と照らして理解する。	
11			6　第二次世界大戦	○	○					○		大戦による人類と文化の破壊に着目し、命の尊さを理解する。	
11		11　占領下の日本	1　占領と改革	○	○			○				戦後の諸改革が占領政策に基づくものであることを理解する。	
11			2　冷戦の開始と講和	○	○				○			戦後日本の政治経済と冷戦構造について関心を持つ。	
12		12　高度成長の時代	1　55年体制	○	○						○	独立回復後の国内政治の再編について過程を理解する。	
12			2　経済復興から高度成長へ	○	○					○		経済復興の過程を、連合国の対日政策に着目して考察する。	
1		13　激動する世界と日本	1　経済大国への道	○			○					経済の国際化と共に先進国としての国際地位確立を考察する。	
1			2　冷戦の終結と日本社会の動揺	○	○						○	国際グローバリズムの中での日本の役割について考察する。	

令和４年度　〔　公　民　科　〕　シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
公民	政治・経済	3	フィールド指定科目(ビジ・人文・文理)	3年	
使用教科書	高等学校　改訂版　政治・経済（第一学習社）			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	教科書をもとに知識を身につけ、その知識を活かして、社会問題について知恵を絞り考える。 政治や社会に対して、主権者としての関わりを考える。

学習評価

育成を目指す資質・能力		育成を目指す資質・能力の評価内容
1	基盤的学力	文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。
2	問題発見・解決能力	問いを立て、解決に向かうことができる。
3	情報活用能力	情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。
4	主体的判断能力	物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。
5	協働力	他者を尊重し、協働することができる。
6	自律力	規範意識をもって自律的に行動することができる。
7	実践力	自ら考えて行動し実践することができる。
8	自己認識力	自分の思考を客観的に捉えることができる。

以上の観点をふまえ、
・知識の修得とその活用に取り組む姿勢を、定期考査、授業や課題への取り組みによって総合的に評価します。

担当者から

教科書を中心に政治および経済の用語を学ぶことで、社会の諸課題に関心を持つようになる、これが第一の学習の目的です。そのうえで、社会の諸課題に対して、政治や自分たちがすべきことは何かを考える、これが第二の学習の目的です。

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力) 1	2	3	4	5	6	7	8	単元（題材）の評価基準	評価方法
4	第1編　現代の政治	第1章　民主政治の基本原理と日本国憲法	政治と法の機能	○								・日本国憲法の理念と基本的人権について理解し、憲法や法律、政治に関わる諸課題に対して、主体的に考えられる。 ・国会、内閣、裁判所、地方自治、選挙のしくみを理解し、主権者として政治について考えられる。	定期考査、授業参加 グループ活動、レポート
4			人権保障と法の支配	○									
4			議会制民主主義と世界の政治体制	○									
4			日本国憲法の基本原理	○									
5			平和主義と自衛隊	○									
5			基本的人権の保障と新しい人権	○									
5			国会の組織と立法	○									
5			内閣の機構と行政	○									
6			裁判所の機能と司法制度	○									
6			地方自治制度と住民の権利	○									
6			政党政治と選挙制度	○	○		○						
6			民主政治における世論の役割	○	○		○						
6		第2章　現代の国際政治と日本	国際社会と国際法	○								・国際法と国際連合のしくみを理解し、世界の諸課題について、主体的に考えられる。	
7			国際連合の組織と役割	○									
7			国際政治の動向	○									
7			国際紛争と難民問題	○	○		○						
7			軍備管理と軍縮	○	○		○						
8			日本の外交と国際平和への役割	○	○		○						
9	第2編　現代の経済	第1章　現代経済のしくみと特質	経済社会の発展	○								・経済のしくみを理解し、これからの経済社会のあり方や諸課題について、主体的に考えられる。 ・農業、社会保障、環境について、現状と課題を理解し、これからのあり方について、自分の考えを述べることができる。	
9			経済主体と経済活動	○									
9			市場経済の機能と限界	○	○								
9			経済成長と景気変動	○		○							
10			物価の動き	○		○							
10			金融のしくみとはたらき	○		○							
10			財政のしくみとはたらき	○		○							
10			日本経済の歩み	○									
10			中小企業の地位と役割	○	○								
11			農業の現状と課題	○	○								
11			消費者問題	○									
11			高度情報社会の進展と課題	○	○								
11			労働問題	○	○								
12			社会保障制度の充実	○	○		○						
12			環境保全と資源・エネルギー問題	○	○		○						
12		第2章　国民経済と国際経済	国際経済のしくみ	○								・国際経済のしくみ、グルーバル化する経済の動向を理解し、これからの国際社会の変容を予測して、日本のあり方について考えられる。	
12			国際協調と国際経済機関の役割	○	○		○						
1			地域的経済統合	○									
1			グローバル化する経済	○									
1			南北問題と日本の役割	○	○		○						

令和４年度　〔　公　民　科　〕　シラバス

北海道北見緑陵高等学校

教科	科目	単位数	種別	年次	
公民	倫理	2	フィールド共通選択科目	3年	
使用教科書	高等学校　新倫理　新訂版（清水書院）			担当者	

学習目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
学習方法	教科書をもとに先人の思想に触れ、「より良く生きる」ということについて考える。
学習評価	育成を目指す資質・能力 / 育成を目指す資質・能力の評価内容 1 基盤的学力：文章を読み解き、対話により意見や考えを他者と交わすことができる。 2 問題発見・解決能力：問いを立て、解決に向かうことができる。 3 情報活用能力：情報を活用し、問題発見・解決や自分の考えの形成に役立てることができる。 4 主体的判断能力：物事を多面的に吟味し、主体的に判断・行動することができる。 5 協働力：他者を尊重し、協働することができる。 6 自律力：規範意識をもって自律的に行動することができる。 7 実践力：自ら考えて行動し実践することができる。 8 自己認識力：自分の思考を客観的に捉えることができる。 以上の観点をふまえ、 ・先人の言葉や考え方を学び、そこから自らの生き方や社会のあり方について考えるようになったかを、定期考査や作文、グループ学習での取り組みよって総合的に評価します。
担当者から	「考えること」「考えを深めること」の意義と、そのためには知ること、学ぶことが必要であることに気づいてもらえることが、学習の目的です。

月	大単元	単元（題材）	学習内容	重点評価事項(資質・能力) 1	2	3	4	5	6	7	8	単元（題材）の評価基準	評価方法
4	1 現代に生きる自己の課題	1 人間とは何か	1 人間とは何か	○				○				哲学の意味を知り、学びへの関心を持つことができる。	定期考査、授業参加 グループ討論への取組 作文
4		2 青年期の課題と自己形成	1 青年期の意義	○							○		
4			2 自己の理解に向けて	○							○		
4			3 豊かな自己実現のために	○							○		
5	2 人間としての自覚と生き方	1 人生における哲学	1 神話から哲学へ	○								ギリシア哲学を学び、先人の思想に興味・関心を持ち、自らの生き方について考えられる。	
5			2 自然哲学の誕生とｿﾌｨｽﾄ	○			○						
5			3 真の知への道ーｿｸﾗﾃｽ	○			○						
5			4 理想主義的なあり方ｰﾌﾟﾗﾄﾝ	○									
5			5 現実主義的なあり方ｰｱﾘｽﾄﾃﾚｽ	○									
5			6 幸福をめぐる問いｰﾍﾚﾆｽﾞﾑの思想	○									
6		2 人生における宗教	1 キリスト教ー愛の宗教	○			○					宗教を理解し、人間にとっての宗教の存在について考えられる。	
6			2 イスラーム教ー啓示と戒律の宗教	○			○						
6			3 仏教ー智慧と慈悲の宗教	○			○						
7		3 人生の知恵	孔子と儒家の思想	○			○					中国の思想に触れ、生き方や社会のあり方について考えられる。	
7			儒教の展開	○			○						
7			道家の展開	○			○						
8		4 人生における芸術	4 人生における芸術	○								芸術の有意性について理解する。	
9	3 現代社会と倫理	1 現代の倫理的課題	1 現代の倫理的課題	○	○							西洋思想に触れ、社会の変化とともに、人間は苦悩し、様々な思想を生み出したことを知る。 自らの生き方や社会との関わりについて考えられる。	
9		2 現代に生きる人間の倫理	1 人間の尊厳	○	○								
9			2 自然や科学技術と人間のかかわり	○			○						
9			3 民主社会における人間のあり方	○			○						
10			4 自己実現と幸福	○			○						
10			5 個人と社会のかかわり	○				○					
10			6 現代における理性の問題	○	○								
11	4 国際社会における日本人の自覚	1 日本の風土と外来思想の受容	1 日本の風土と伝統	○								日本の思想に触れ、日本人の思考が風土や歴史の中でどのように生み出されてきたかを知る。 日本人としての自覚と、これからの生き方や社会のあり方について主体的に考えられる。	
11			2 仏教の伝来と隆盛	○									
11			3 儒教の日本化	○									
11			4 日本文化と国学	○									
11			5 近代庶民の思想	○									
11			6 西洋近代思想の受容	○									
12		2 現代の日本と日本人としての自覚	2 現代の日本と日本人としての自覚	○	○			○					
12	5 現代の諸課題と倫理	1 生命と倫理	1 生命と倫理	○			○					様々な思想に触れ、そこから自分の考えを深める。 現代の諸課題について、自分の意見を述べられるようになる。	
12		2 環境と倫理	2 環境と倫理	○			○						
12		3 現代の家族とその課題	3 現代の家族とその課題	○			○						
12		4 地域社会の変容と共生	4 地域社会の変容と共生	○			○						
12		5 情報社会とその課題	5 情報社会とその課題	○			○						
1		6 グローバル化の時代と倫理	6 グローバル化の時代と倫理	○			○						
1		7 人類の福祉と国際平和	7 人類の福祉と国際平和	○			○						